

<県外派遣報告書>

2026.04.01

報告者 日高 煌我

- 1) 大会名 第57回マクドナルド全国ミニバスケットボール大会
- 2) 開催期間 令和8年3月28日(土) ~ 31(火) 4日間
- 3) 会場 京王アリーナ TOKYO (施設名称 武蔵野の森総合スポーツプラザ)
〒182-0032 東京都調布市西町 290-11
- 4) 派遣者 日高 煌我 (以上1名)

5) 担当ゲーム

【28日(大会1日目)】

女子 大垣ミニバスケットボールクラブ(岐阜県) - 絆MBC(千葉県) B1
CC: 林 洋吾(山梨県) U: 日高 煌我(鹿児島県)

PGC(プレ・ゲーム・カンファレンス)

大会スタートゲームということもあり、今大会は特別ルールも適用されているので各チームどのようなバスケットボールを繰り広げていくのか少し様子をみながら判定に繋げていけたら。

タイムアウト中やQ間など、気づいたことがあればお互いにクルーやTOに共有を行う両チーム、あまり目立った大きな選手はいないが、小さめの選手たちがどのようなかたちでプレーに絡んで来るのか。

リバウンド時のボックスアウトの仕方(飛び込みリバウンドも含む)や、手の使い方、体の張り方などより一層長くプレイヤーをみてあげる。

PGC(ポスト・ゲーム・カンファレンス)

大会はじめのゲームで特に大きな怪我もなく、両ベンチともコミュニケーションを適度に取りながら、スムーズなゲーム運営ができたのではないかなと思う。

ファウルを判定するにあたり、その現象に繋がるまでの物語を把握しておけた。

プレ・ゲーム・カンファレンスでもクルー内で共有を行っていたが、飛び込みリバウン

ドについてどちらが先にその位置を占めていたのか、スクリーンが使われる場面でコンタクトがあった場合、イーブンなのかどちらかにイリーガルなプレーがあったのか…

改めて今ゲームを通して、他ゲームの他場面に繋げていける現象がいくつかあったように感じる。

ゲームを通して表示物（観客やベンチ・映像からみて分かるもの）の管理を丁寧にすることができ、TOトラブル等でゲームが止まることもなかったのもその点は良かったのではないかと思う。

【29日（大会2日目）】

女子 平野ミニバスケットボールクラブ（滋賀県） - 旭ミニバスケットボール少年団（北海道） F4

CC：内藤 陽太（神奈川県） U：日高 煌我（鹿児島県）

PGC（プレ・ゲーム・カンファレンス）

当たり前のことではあるが、Tはバックコートでのボールの追従を行う。

チェックイン・チェックアウトをT・Lお互いにアイコンタクトを取りながら、どちらのレフェリーもみていない空間・時間帯ができないように。

北海道のNo.4が大きな選手だが、事前情報等によると入部して1年も経っておらず、足元が緩い部分があるよう。

敏感になる必要はないと思うが、見逃さず全てのプレーにおいて必要な場面があれば淡々と判定していけたら。

滋賀県のNo.5はシュートにいくプレーは少なそう。ボールのコントロール時やシュートにいった際のAOSの判断を誤らないように。

北海道のNo.6はドライブからのシュートが多いように感じる。

シュート時やドライブスタート時の手のコンタクトをしっかりとレフェリーディフェンスをし判定に繋げていけたら。

PGC（ポスト・ゲーム・カンファレンス）

昨日の担当ゲームの反省も活かし、手のコンタクトを1Qから基準を示せるよう淡々と判定を積み重ねていったつもり。しかし、あまり選手たちには伝わっておらず、ゲーム1本を通して吹き続けることになってしまい、3Q始まったのタイミングでファウルアウトの選手を出してしまった。

（ハーフタイムにそれぞれファウルトラブルを抱えている選手はクルーで共有済み）

そして、その部分が余計に気になりすぎていたのかボディーのコンタクトについて、リーガル・イリーガルの判定がクルーで曖昧になってしまっていた時間帯があった。

ポストにプレイヤーがいるのにも関わらず、クローズダウンポジションに遅れて入る場

面も何個かあったように感じた。

両チームの HC とは適切な関係でコミュニケーションは取れていたように感じる。

ここからは個人的な反省になるが、ゲームのファーストファールコールで私がテーブルレポートの番号を誤ってしまった。

すぐに TO の子たちがブザーを鳴らしてくれ、特にゲームに支障が出るような大きな問題にはならずとても助かった。

【30日（大会3日目）】

男子 二日比 BLUE FOX（岡山県） - 古江台ゴールデンエイジ（大阪府） A6
CC：安西 隼（埼玉県） U：日高 煌我（鹿児島県）

PGC（プレ・ゲーム・カンファレンス）

昨日までの女子ゲームと変わり、力も強くなるため 3P の試投数も増えると予想する
前日までのゲームと何ら変わりはないが、より一層シューターの着地点まで見届ける。
大阪府側、ブレイク時のクリアアウトにはスタート時から目を当て続け、イリーガルな
コンタクトがあった際には、こちらも淡々と笛を入れられたら良い。

両チームともに当日の 1 試合目をみると、気持ちの振り幅が大きい選手が少数いる。

こちらも適度なコミュニケーションを取りながら気持ちよくバスケットボールをしてもらいたい。
当ゲームまでと同様、時間が経つにつれてよりクリーンなバスケットボールを各チームに繰り広げてもらいたい。

PGC（ポスト・ゲーム・カンファレンス）

今大会初の男子ゲーム担当 特に大きな怪我やトラブル等もなく無事に大会 3 日目のゲームを終えられたように感じる。

特に後半は前半負けているチームが追い上げを魅せてくれる場面もあり、選手とチームで決着をつけてくれた印象。

【31日（大会4日目）】

男子 草津 OSC（滋賀県） - 浜松江南ジュニアバスケットボール少年団（静岡県） B2
CC：今野 史悠（山形県） U：日高 煌我（鹿児島県）

PGC（プレ・ゲーム・カンファレンス）

笛を入れるタイミングを誤らないよう、最後までよくプレーを見届けてあげること。
当ゲームまでの反省を活かし、手のコンタクトがリーガルでもボディーのところかどうか

なのか。

両チームとも二桁番号の選手もしっかりとプレーに絡んでくる。

クルーで10人のプレイヤーを視野の中に入れられるように。

怪我をした選手がいた場合の対応について、選手の安全を第一に考えると共に、スムーズなゲーム運営ができるよう、ゲーム開始前の顔合わせの際に両チームのHCの方とはコミュニケーションを取っておく。

ゲーム開始前からゲーム終了後までTOとのコミュニケーションも忘れずに。

【全担当ゲームを通して】

基本的なメカニクスで正しい位置から説得力のある判定に繋げていくため、レフェリーディフェンスを徹底しつつ、体を止めた状態でのコールを心掛けたい。

3Pのエッジ(L側 4番ポジション)は、必ずLが3or2と着地点までの確認を行う。

基本、体を外側に向けるようなかたちではなく、バックペダルでプレーをみにいくようなイメージで。

そして何より、プレイヤーやチームが気持ちよく勝敗を決められるよう、あくまで我々審判員は'サポート'を行う。

PGC (ポスト・ゲーム・カンファレンス)

こちらもひとまず大きな怪我やトラブル等なく無事にゲームを終えられたかと思う。一個人審判員としては、この全国大会という舞台の最終ゲームを気持ちよく終えられたのではないかと思っている。

6) 感想

今大会の派遣は2年振り2回目となりました。私自身、久しぶりの県外派遣ということではどんなバスケットボールが見られるのか、どんな景色が待っているのか、どんな人たちと出会うことができるのかとたくさんのワクワクをもちながら派遣期間を迎えておりました。

少し私事にはなりますが、2年前の私と違うところ。それはU12チームのアシスタントコーチをしていることです。前回の派遣では気づけなかったものを様々な角度から発見することができ、とても充実した今派遣となりました。

そして今大会は大会特別ルールとして、男女ともに6号球で3Pラインの導入。それに伴う会場の変更。参加プレイヤーである全国の小学生をはじめ、チーム関係者の皆様は変更に対応するため、たくさんの試行錯誤を重ねながら様々なものを犠牲にしたことと思います。改めて子供たちの頑張り・努力と保護者やコーチ、その他に関わる方々のお陰で、このような素晴らしい大会が開催されていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

素晴らしいものをたくさんみせていただいた、私にとっても成長ができた今大会の4日間となりました。本当にありがとうございました。

最後に今大会参加にあたりご尽力くださいました日本バスケットボール協会関係者の皆様をはじめ、変更に伴い様々なご案内や運営、おもてなしをくださった東京都バスケットボール協会の皆様、派遣いただきました鹿児島県バスケットボール協会の皆様、U12部会の皆様、鹿児島県原田審判長をはじめ、推薦くださいましたU12林審判長、私の所属するU12チーム「桜丘ドリームゲッターズ」の皆様、家族、学校関係者の皆様、関わってくださった全ての皆様に深く御礼を申し上げます。ありがとうございました。拙い内容ではございますが、以上をもちまして今派遣に関わるご報告とさせていただきます。今後ともよろしく願いいたします。

鹿児島県審判員 日高 煌我